

説教余滴、2018年8月26日「夏の終わりに」

これを書いているのは8月24日。台風20号は、徳島の東端に上陸。更に北上、日本海を目指す模様。田浦では時折風が吹き、雨が降る程度。丹後地方、伊根町の舟屋集落は大丈夫でしょうか。波静かな入り江の岸辺に独特の景観がありました。間口は多くの家が分け合ったためでしょうか狭い。一階は舟入、二・三階が居住空間。道路はここに接続している。長い伝統ある様式。嵐にも対応しているのでしょうか。

秋の虫の鳴声が始まりました。夏の最期の日々に気付いているのでしょうか、セミがしきりと鳴いています。同時に、路上にはセミの屍骸が目につくようになりました。アブラセミ、ミンミンセミ、ほかは分かりません。ツクツクホーシは、このごろ聞きません。ヒグラシは区別できるはずですが。北海道ではエゾハルゼミ、小型で少し早く鳴き始めます。もう一つ、クマセミもわかります。大阪では馴染み深いセミ。シャーシャーとなきます。セミ仲間では一番大きく、鳴きも大きい。羽はほぼ透明です。其処に緑の筋が入っているためでしょうか、うっすらとグリーンぽく感じられます。最初に会ったのは熊本で開かれたキ保連の夏期講習会的时候了。うるさいほどの鳴き声？これがクマセミ、と教えられました。木立の間を捜し求め対面。やがて、大阪の玉出教会。庭の木々でなっていました。まごうことなくクマセミ。うるさかったけれども、爽快。いかにも夏が来たと教えてくれました。

セミは本来熱帯系の昆虫。北欧にはほとんどいないそうです。来日した北国の人には鳥が鳴いていると思い、「鳴く木」があると感じる、と言います。クマセミの北限は、かつては湘南地方であったそうです。その後、関東でも繁殖しているそうです。人類は南アフリカが発祥の地、其処から北上し、各地に分散繁殖。セミも一緒だったのか。